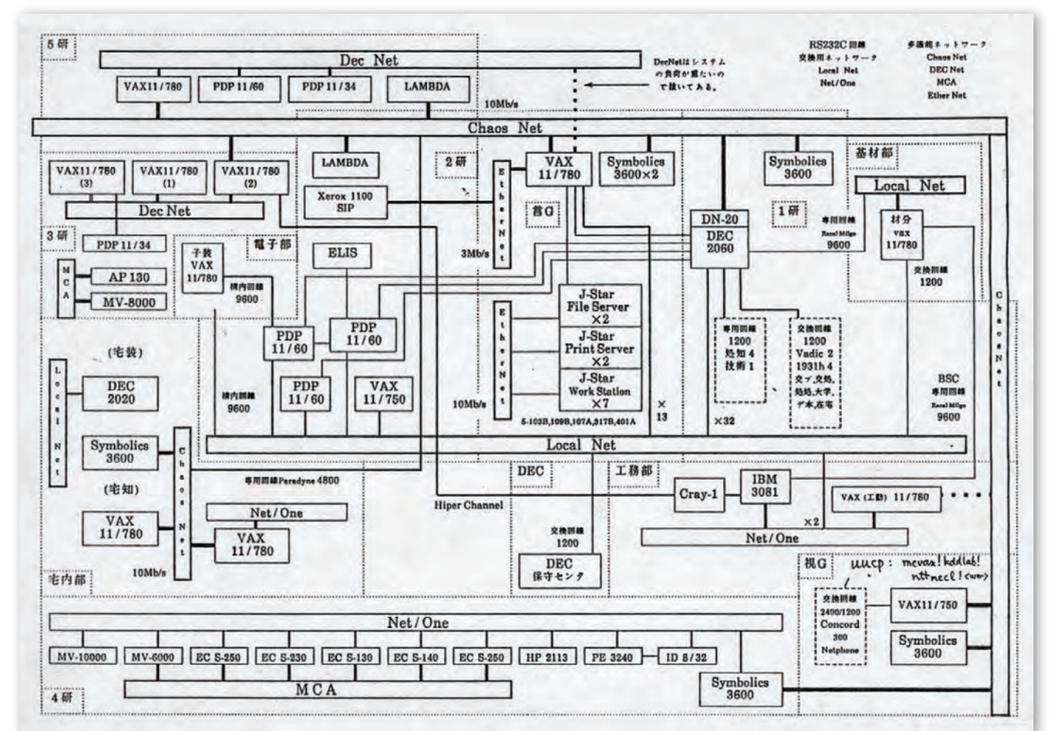


NTTの研究開発ネットワーク

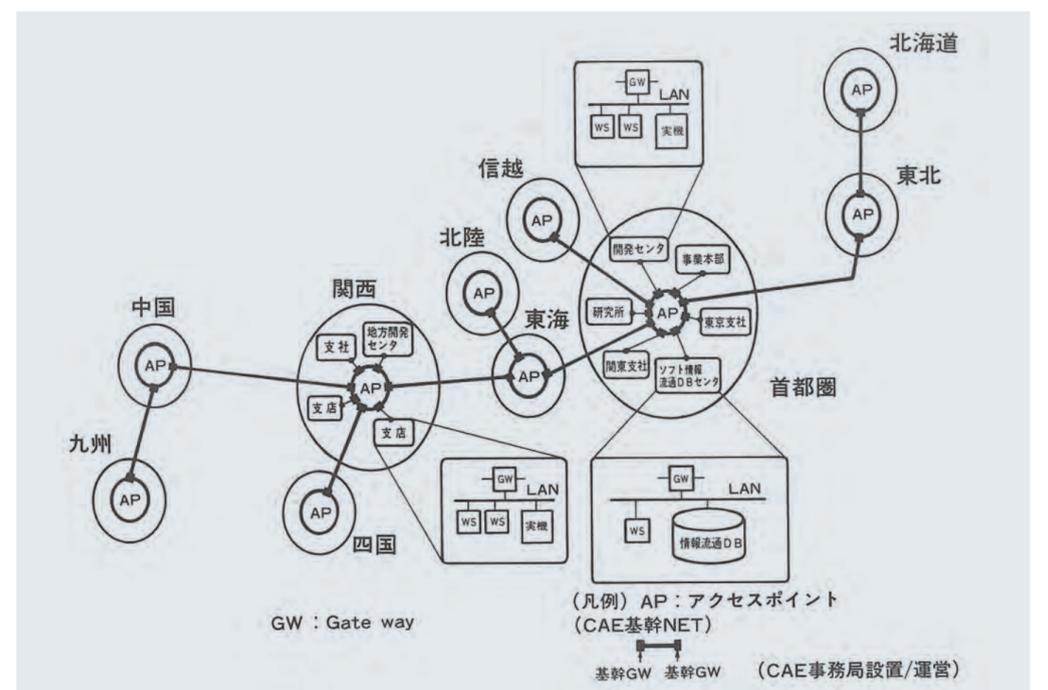
Early IP networks in NTT R&D

NTTの研究ネットワークNTT-INETと、ソフトウェア開発支援環境基盤ネットワークCAE-NETの発展

NTT研究所でも、ARPANETと同等の環境を自ら構築することを目指し、コンピュータ・ネットワークの実験を開始しました。当初は身近な計算機同士をイーサネット、そしてTCP/IPで接続することで始まったネットワークは、1988年12月には、武蔵野・横須賀・厚木・茨城・品川の5地区、1000以上のホストからなるマルチベンダシステムの研究用ネットワークNTT-INETへと発展していきました。また、1989年にはNTT社内のソフトウェア開発支援のため、高速専用線で日本全国各地のソフトウェア開発・保守運用部門を接続するネットワーク、CAE-NETの構築が始まりました。CAE-NETは、その2年後には2万台を超えるワークステーションを収容するネットワークに成長しました。



1986~1987年当時のNTT-INET (一部)



CAE-NETの構築イメージ

ARPANET : Advanced Research Projects Agency NETwork
TCP/IP : Transmission Control Protocol/Internet Protocol
CAE-NET : Computer Aided Engineering NETwork